

〔施設紹介〕

国立身体障害者リハビリテーションセンター

国立身体障害者リハビリテーションセンター病院

第一機能回復訓練部理学療法 川井伸夫（夜間修士課程第2期生）

○ 沿 革

昭和20年半ばより在京3施設で実施されてきた身体障害者に対するサービスは、所沢で統合され、さらに新たな発展を期して昭和54年の夏より開始された。今年の7月で開設以来丸13年となる。その間、昭和55年には病院機能の本格的業務開始、昭和59年から61年にかけての研究所の整備、昭和62年から平成3年にかけての義肢装具士を始めとする専門職養成課程の増設のほか、アジア諸国からの研修受入れと中国リハビリテーション研究センター開設のための技術援助など、国立の機関としての使命を果たすべく機能の充実をはかってきた。平成4年には、入院病床が150床となり、今後の10年に向けて新たな一歩を踏み出したところである。

○ 機 能

センターは次の4つの事業を実施することによって、身体障害者福祉の増進に寄与することを目的としている。第一は、身体障害の種類や程度に応じて、医師、看護婦、理学療法士、作業療法士、心理判定員、ケースワーカー、職業指導員などの専門職員が社会復帰のための治療と訓練を行ない、同敷地内にある「国立職業リハビリテーションセンター」での職業教育をも含めた、一貫した総合的リハビリテーションの実施である。第二は、福祉機器、医学、工学、社会学などについてのリハビリテーション技術の研究と開発の実施、第三は、聴能言語専門職員を始めとする5職種の養成と年間20回余のリハビリテーション専門職員に対する研修会開催と国際技術援助の実施である。第四は、国内外のリハビリテーションに関する資料の収集と提供の実施である。

○ 組織と設備

更生訓練所の定員は580名で、身体障害者手帳の交付を受けた15歳以上の者を対象とし、一般リハビリテーション（職能訓練、機能回復訓練）、生活訓練（ADL訓練、コミュニケーション訓練）、理療教育が行なわれて

いる。病院は現在病床数150で身体に障害のある者およびなるおそれのある者、医師の紹介のあったものを対象としている。現在、入院患者の障害の多くは脳血管障害と脊髄損傷疾患で占められている。平成4年の50床増床にともない、今後さらにニーズが高まるであろう問題に取り組むため、高次脳機能障害評価訓練室、人工受精・排泄障害治療室、人工内耳治療訓練室、家庭復帰準備・介助機器適合訓練室の新設と低視力者訓練（ロービジョンクリニック）、障害者歯科治療、障害者ドック、糖尿病指導などの機能充実がはかられた。今後の成果が期待されるところである。

○ シンボルマーク

センター本館の屋上にはシンボルマークのセンター旗がはためいている。このマークは、国際障害者年を記念し、入所者・職員からの募集作品の中から選定され、昭和56年に制定されたもので、リハビリテーションにたいする強い意思、訓練に励む力強い5本の指、未来と社会に向かって伸びようとする入所者・職員の姿、そして友情と信頼を象徴している。

○ ハナミズキとカルガモ

またセンターの建物の周りにはセンターの花である「ハナミズキ」が植えられ、初夏には淡いピンクの花をつけ、慌ただしい我々の心を慰めてくれる。敷地中央の野外訓練場には池があり、鯉、金魚や亀の姿をみることができる。7、8年前から毎年カルガモが十数羽の雛をかえし、訓練中の患者や外来者の目をなごませ、時には近くの幼稚園児が歓声をあげる対象にもなっている。

○ 開設以来13年間に様々な事業の見直しと拡大がはかられてきた。しかし、大規模な施設は小回りがきかず、一旦動き始めると修正も容易ではない。最近、目先の利益にはしり、本質を無視する傾向の強い現代ゆえ、それはそれで良いことでもあると考えている。ただ10年あるいは20年先の寄港先と航海計画がしっかり

していることが前提の話だが・・・。

全国の福祉施設のモデル、また技術援助を通しての国際交流機関に働く専門職員として真に胸をはって働きたいものである。

紙面の都合上、センターの概略と最近のトピックスの記述にとどめました。詳細な相談や見学については

下記にお問い合わせください。

国立身体障害者リハビリテーションセンター

住所：〒359 埼玉県所沢市並木4-1

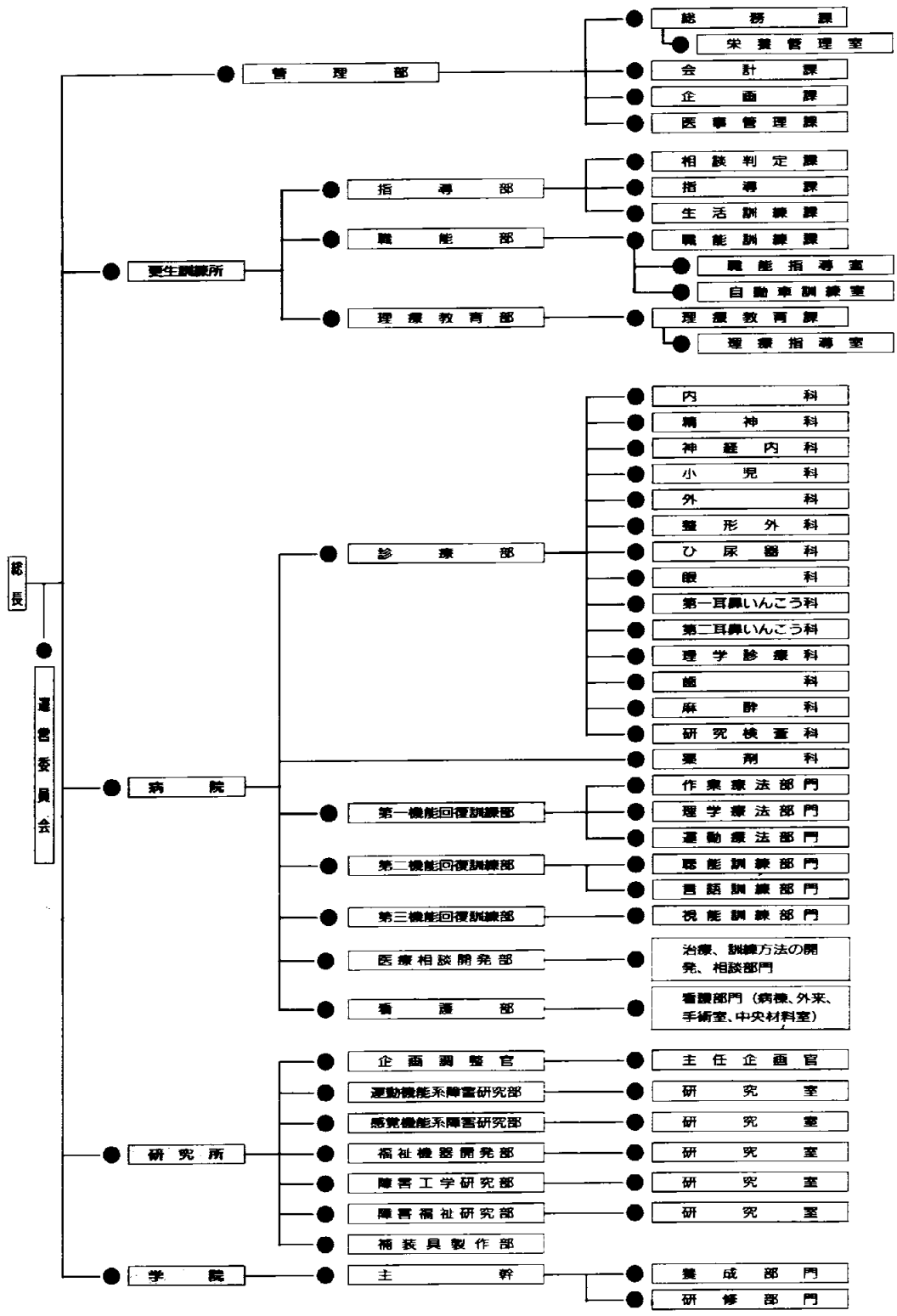
TEL 0429-95-3100代 FAX 0429-95-3102

入所についての相談は……相談判定課 内線308

センター見学については…企画課 内線219



センター全景写真



センターの組織